

## 保護者の皆さまにご理解いただきたい大切なこと

### お子さんのケガ

日々の生活の中で、皆さんのお子さんは必ずケガをする、ということをご理解ください。すり傷や切り傷だけではありません。歯が折れる、骨折をするといったできごとにも十分に起こります。それは園生活に限らず、ご家庭でも起こります。

生まれた直後から、子どもはいろいろなことを試します。自分自身のからだも興味の対象ですし、からだを使って子どもはいろいろなことをします。子どもにとっては楽しいことであり、すべてが学びです。そして、立ち上がれば倒れます。歩き出せばつまずき、転びます。走れば転び方も大きくなります。園庭の真真中で元気に追いかけっこをしている年中児や年長児も転びます。どんな転び方であっても、歯が折れるかもしれませんし、骨折するかもしれません。まったくケガをしない時もあるでしょう。

保育と教育の専門家として私たちは、「子どもがする必要のないケガ」はできる限りさせない努力をします。「子どもの命を守る」取り組みもします。成長発達に合わない活動や明らかに危険な活動はさせませんし、そういった活動でお子さんがケガをした場合には、私たちの取り組みと活動を見直します。けれども、成長発達に合った活動、子どもの育ちにとって必要な活動によって起こるケガについては、「育ちにとって必要なこと」として、保護者の皆様のご理解をお願いしたいと考えます。

たとえば次のような活動中は、保育者が子どもたちに注意を促しますが、活動の性質上、保育者がケガ自体を防ぐことはできません。

- ・ 鬼ごっこやかけっこ：当園では、1歳ごろから始めます。  
ぶつかる、つまずく、滑る等によるケガが起きます。
- ・ ブランコ遊び：当園では、2歳ごろから始めます。  
乗っている間に落ちる、降りる時に転ぶ等してケガが起きます。
- ・ 縄跳び：当園では、3歳ごろから始めます。  
つまずき等によるケガが起きます。

また、子どもが鉄棒をしている時や、ジャングルジムや登り棒などの高い場所に登っている時は、子どもに「手を離さない」よう伝えながら見守りますが、転落自体は防ぐことができない可能性が高く、また、転落した子どもを保育者が必ず支えられるわけではありません。跳び箱などの活動も同じです。

子どもたちは毎日、いろいろなことが少しずつできるようになっていきます。私たちは専門家として、いろいろなことが安定してできていくように支援し、新しいことに挑戦できていくように促していきます。たとえば、跳び箱を跳べるようになるまでに、子どもたちは乳児期からさまざまな運動遊びをし、からだを動かし、「跳び箱を跳ぶ」という動きにつながっていきます。乳児期の運動遊びの中でも、転んだり、滑ったり、ぶつかったりして小さなケガは起こります。

私たちはこれから、それぞれのお子さんの「でき始めていること」「できるようになってきていること」「新しく挑戦しているけれども、まだできないこと」などを保護者の皆さんにお伝えしていきます。子どもたちが成功したことだけでなく、失敗したこともできる限りたくさんお伝えしていきます。保護者の皆さんに、子どもたちが頑張っている姿、「負けたけど楽しかった！」「今度は頑張る！」という前向きの姿、「痛くないよ！ これくらい平気！」という乗り越える姿をお伝えすることも、私たちの仕事だと考えているからです。

こども園の活動について、お尋ねや、「これはちょっと心配…」「これはこういうふうにしてみては？」といったご意見がありましたら、園長または職員にいつでもお伝えください。皆さんのお子さんが、どんなことにでも挑戦し、痛みも乗り越え、力いっぱい生きていけるおとなに育つよう私たちも力を尽くしますので、どうぞよろしくお願いたします。

#### 重篤なケガや事故発生時 園の体制について

1. 園児の意識の確認・ケガの状態を把握し、安静に保つ  
必要に応じてAEDによる除細動・ケガの部位によっては応急処置を施す
2. 救急車の手配・病院への連絡と同時に保護者の皆様への連絡  
既往症や持病・現在の健康状態などを救急隊員や受け入れ病院に伝える
3. 病院への搬送  
救急車での搬送には原則、保護者の付き添いが必要であるが、急を要する場合は受持が代行する
4. 保護者の皆様への説明  
ケガや事故直後の様子を正確にお伝えする
5. ケガや事故後、園児へのケガや事故の再発防止やメンタルケア  
危険箇所の再確認や、事故防止について、園児への説明や、不安な状態を取り除くことの心のケアを心掛ける

※擦り傷・切り傷・打撲など、小さなケガや事故についても保護者の皆様へ報告するようにはしておりますが、園児の訴えがないような場合など、職員が気付かずに降園することもありますので、そのような際はご連絡いただけますと幸いです。ご協力をお願いいたします。